

杭州日本人学校

杭州日本人学校がある杭州市は、中国の浙江省にあり、人口が700万人の大都市です。この街のシンボルは、ユネスコ世界遺産に指定された「西湖」で、特産品には中国緑茶(龍井茶)や絹などがあります。上有天堂、下有蘇杭(上に天国があれば、下に蘇州・杭州がある)と謳われ、13世紀にこの地を訪れたマルコポーロが「世界で最も美しい都市」と絶賛したことでも有名です。

さて、杭州日本人学校は2016年で開校9年目を迎えました。全校児童生徒が合わせて50人の小規模な学校で、小学校と中学校が併設されています。さらに「ぱんだ組」と呼ばれる4、5歳児の教室もあり、4歳～15歳までが同じ場所で毎日を過ごしています。「みんなが家族のような」を合言葉に、ぱんだ組と小学生、中学生と一緒に学校行事に取り組んだり、休み時間に遊んだりしています。みんな本当の家族のように仲良しです。

学校の特色としては、中国語の学習の時間が週1回時間ある他、週1回設定されている杭州タイムの時間には、浙江省工商大学の学生ボランティアが来校し、会話を中心に中国語の学習を行っています。また、パナソニックや東芝などの日系企業見学を数多く計画したり、ANAが航空教室を開催したりするなど、現地の企業とのつながりも大切にしています。

杭州に赴任して1年が過ぎましたが、素晴らしい子どもたちと保護者、地域に支えられて、毎日を本当に楽しく過ごしています。

